

令和7年度第2回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和7年6月28日（土） 8時30分～13時

テーマ：南限のハマナスと海辺の植物を観察しよう

場 所：鹿嶋市大小志崎海岸

案 内：小幡和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）

内 容：霞ヶ浦の水は利根川を経て太平洋に注ぎます。その海岸である鹿島灘沿岸は、砂浜海岸が100kmにわたって広がり、いろいろな海浜植物が生育しています。そして、美しい花を咲かせる北方系の植物ハマナスの南限地が鹿嶋市大小志崎にあり、国の天然記念物に指定されています。この観察会では、南限のハマナスと海辺の植物を観察し、霞ヶ浦湖岸の植物、内陸の植物などと形態や生態の違いを発見します。

参加者：18名（大人18名）

担当職員：6名

パートナー：6名

結 果：8時25分に霞ヶ浦環境科学センターを出発し、9時45分に鹿嶋市大小志崎海岸に到着しました。まず、砂浜の植物を観察し、次にハマナス群落を観察しました。今年も残念ながらハマナスやハマヒルガオなどは花の季節を終えていましたが、ハマニガナやスカシユリ、ハマナデシコなどの美しい花を観察することができました。11時40分に観察を終え、霞ヶ浦環境科学センターに12時50分に戻り解散しました。

当日は、梅雨の中休みのような天気やや暑かったですが、参加者の皆さん元気に最後まで観察することができました。皆さん、たいへんお疲れさまでした。

主な観察した植物を次に示します。

《大小志崎海岸で観察した主な砂浜の植物》

海岸の砂浜は、塩水、乾燥、常に動く不安定な砂など、過酷な環境であるが、このような場所に適応した海浜植物が生育している。葉が肉厚になったり、地下部には縦横に長い根茎をもっていたり、特殊な形をしている。観察した主な植物を下にあげる。

ツルナ・・・海浜に生えるハマミズナ科の多肉植物。野菜としておいしく食べられる。

オニハマダイコン・・・最近茨城の砂浜で増えているアブラナ科の外来植物。小さな白い花と、こけしのような形の果実が特徴。30年前から徐々に増えだした。

オニシバ・・・シバを少し大柄にしたようなイネ科の植物。葉の先端は尖り、さわると痛い。

コウボウムギ・・・ムギの名前がついているがカヤツリグサ科スゲ属の植物。海浜の優占種。

雌雄別株で、穂がついているのは雌株。この穂を弘法大師の筆にたとえたのが名前の由来。

コウボウシバ・・・コウボウムギと同じ弘法大師のコウボウが名前についたスゲ属の植物。

この種も海浜の優占種となる。コウボウムギに比べると葉は細く、花実も目立たない。

コマツヨイグサ・・・外来種であるが古くから各地の砂浜でふつうに見られるアカバナ科の植物。内陸でも道端や空き地にも見られるので、なじみ深い植物である。

スナビキソウ・・・白いきれいな花が咲くムラサキ科の植物。地中に根を深くはる。茨城では最近減少しており、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

テンキグサ・・・イネ科の大柄な植物。葉の色が独特な淡青色をしている。ニンニクを連想させるのでハマニンニクの名をもつ。

ハマエンドウ・・・海浜に生えるマメ科の植物。スイートピーの仲間できれいな青紫色の花を咲かせ、エンドウ豆に似た果実をつける。葉はやや肉厚であるである。

ハマスゲ・・・カヤツリグサ科カヤツリグサ属の植物。内陸でも道端や畑の雑草としてふつうに見られなじみ深い植物である。

ハマニガナ・・・きれいな黄色い花を咲かせるキク科の植物。海岸線に近い最前線に生える。地下茎は横に長く這う。葉がイチョウの葉を連想させるので、ハマイチョウの別名をもつ。

ハマヒルガオ・・・ハマニガナとともに海浜の最前線に生えるヒルガオ科の植物。アサガオに似た果実をつけていた。地下茎はハマニガナに似て砂浜の深いところを横に這って増える。

ハマボウフウ・・・刺身のつまに使われるセリ科の植物。薬草としても使われる。直根が地中に深く伸びる。最近では減少傾向にあり、茨城では準絶滅危惧種に指定されている。

スカシユリ・・・海岸の砂浜に生えるユリ科の植物。オレンジ色の6枚の花びらの間に隙間があるのでスカシユリと名付けられた。

アツバキミガヨラン・・・公園などに植栽される栽培植物。最近各地で海岸の砂浜などに野生化して問題になっている。

《やや内陸のハマナス群落周辺で観察した主な植物》

ハマナス群落は、海岸線に近い海浜植物群落よりやや内陸にある。ハマナス群落とともに生育する主な植物を以下に示す。

ハマナス・・・海岸などの生える寒地性のバラ科植物で、茨城県を南限とする。大小志崎海岸のハマナス群落は大正 11 年（1922 年）に国の天然記念物に指定された。

ハマナデシコ・・・海岸に生えるナデシコ科の美しい植物。栽培もされる。葉がやや厚く光沢がある。

ワセオバナ・・・海岸に生える大型のイネ科植物。サトウキビの仲間で、根元付近の茎をかじると甘い味がする。

テリハノイバラ・・・海岸に多いが内陸でもふつうに見られるバラ科の低木。地面を這う。葉に光沢があるのでこの名が付いた。

トベラ・・・暖地の海岸に見られる低木。葉は光沢があり、周辺部が内に巻くように反っている。葉に悪臭がり、節分にイワシの頭などとともに鬼を払う魔よけとして戸口に掲げられた風習があるので「扉の木」とよばれ、これが転訛してトベラとなった

マサキ・・・生垣に利用される低木であるが、本来の生育地は海岸付近である。ニシキギ科。

シャリンバイ・・・公園や庭園などによく植えられる低木であるが、マサキと同じように本来の生育地は海岸である。バラ科。

マルバアキグミ・・・アキグミの海岸型の変種。特殊な鱗状毛に覆われた葉は銀色に見える。

オオバイボタ・・・海岸でふつうに見られる低木。葉は内陸のイボタよりやや大きく厚みがあり、やや尖るのが特徴。

第2回霞ヶ浦自然観察会



鹿嶋市大小志崎海岸で海浜植物の観察を開始



ハマニンニクともいうテンキグサを観察する



セリ科の薬用植物になるハマボウフウを観察



黄色い花の海浜植物ハマニガナ



オレンジの花を開き始めたスカシユリを観察



砂浜にアツバキミガヨランが野生化していた



国の天然記念物ハマナス自生地の観察



残念ながらハマナスの花は終わり実になっていた